

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年2月12日

【四半期会計期間】 第96期第3四半期(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

【会社名】 三井金属鉱業株式会社

【英訳名】 Mitsui Mining and Smelting Company, Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 西田 計治

【本店の所在の場所】 東京都品川区大崎一丁目11番1号

【電話番号】 03 - 5437 - 8031

【事務連絡者氏名】 経理部会計課長 黒田 啓市

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区大崎一丁目11番1号

【電話番号】 03 - 5437 - 8031

【事務連絡者氏名】 経理部会計課長 黒田 啓市

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第95期 第3四半期 連結累計期間	第96期 第3四半期 連結累計期間	第95期
会計期間		自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2020年4月1日 至 2020年12月31日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高	(百万円)	355,920	361,849	473,109
経常利益	(百万円)	11,643	27,542	9,318
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	6,268	14,073	1,566
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	7,832	17,832	1,875
純資産額	(百万円)	182,808	188,385	173,255
総資産額	(百万円)	520,138	595,783	537,119
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	109.76	246.45	27.43
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	33.5	29.8	30.7

回次		第95期 第3四半期 連結会計期間	第96期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 2019年10月1日 至 2019年12月31日	自 2020年10月1日 至 2020年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	(円)	77.80	171.92

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(金属)

日比製煉株式会社の株式を追加取得したことにより持分比率が増加したため、同社及びその子会社である日比共同製錬株式会社を連結の範囲に含めております。

詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(企業結合等関係)」に記載のとおりであります。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績等の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、「COVID-19」）の拡大により、経済活動や社会生活全般が大きな影響を受けたことから、個人消費や企業収益の悪化、輸出が大幅に減少するなど、景気の停滞感が鮮明となりました。

経済活動の再開が段階的に進められるなか、景気の一部に持ち直しの動きがみられるものの、昨年11月以降、COVID-19の感染拡大が続いており、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

こうした経済環境の下、当社グループは2024年のありたい姿である「機能材料、金属、自動車部品の3事業を核に、成長商品・事業を継続的に創出し、価値を拡大し続けている会社」を実現する成長基盤の変革を目指し、2019年を初年度とする3ヵ年の中期経営計画「19中計」を策定し、2019年4月よりスタートいたしました。

各事業セグメントにおいて「13、16中計の収穫」「19中計での成長戦略の実行」「変革を促す将来への布石」を実現するための重点施策に取り組みました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの売上高は、前年同期比59億円（1.7%）増加の3,618億円となりました。

営業利益は、第1四半期において、COVID-19の影響に伴い主要製品の販売量が減少したものの、第2四半期以降、自動車市場の回復等を背景に需要も回復基調で推移したことに加え、非鉄金属相場の変動に伴う在庫要因の好転や、コストダウンを実現したこと等により、前年同期比181億円（148.2%）増加の303億円となりました。

経常利益は、持分法による投資損益が21億円悪化したものの、営業利益の増加により、前年同期比158億円（136.6%）増加の275億円となりました。

特別損益においては、投資有価証券売却益134億円、銅鉱山権益譲渡損失引当金繰入額204億円（カセロネス銅鉱山の権益譲渡に係る損失の見積額）等を計上しました。加えて、税金費用及び非支配株主に帰属する四半期純利益を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比78億円（124.5%）増加の140億円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの変更を実施しております。その内容につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

機能材料セグメント

キャリア付極薄銅箔や電子材料用金属粉は、需要が堅調であったことから販売量は増加しました。排ガス浄化触媒は、第2四半期以降の需要は堅調であったものの、第1四半期におけるCOVID-19の影響により販売量は前期並みとなりました。また、主要原料であるパラジウム・ロジウム価格が高騰したことから販売価格は上昇しました。

この結果、当部門の売上高は、前年同期比132億円（10.5%）増加の1,395億円となりました。経常利益は、主要製品の販売動向の影響に加え、インジウム価格の変動に伴う在庫要因が好転したこと等から、前年同期比48億円（46.1%）増加の153億円となりました。

金属セグメント

亜鉛・鉛のLME（ロンドン金属取引所）価格が下落したものの、第1四半期連結会計期間より、日比製錬株式会社及び日比共同製錬株式会社を連結子会社としていること等から、当部門の売上高は前年同期比114億円（9.2%）増加の1,359億円となりました。経常利益は、LME価格の下落や円高による影響に加え、持分法による投資損益の悪化、亜鉛製錬設備の大規模定期修繕工事があったものの、LME価格の変動に伴う在庫要因が好転したことに加え、受取配当金の増加があったこと等から、前年同期比121億円（778.8%）増加の136億円となりました。

なお、日比製錬株式会社及び日比共同製錬株式会社を連結子会社としたことにより、当部門の売上高は前年同期比197億円、経常利益は同22億円増加しております。

自動車部品セグメント

第2四半期以降、需要は回復基調で推移しているものの、COVID-19の影響に伴う世界的な自動車市場の減速により、主要製品の販売量が減少したことから、当部門の売上高は前年同期比115億円（16.5%）減少の587億円となりました。経常利益は、主要製品の販売量が減少したものの、コストダウンを実現したことから、前年同期比3億円（44.4%）増加の12億円となりました。

関連セグメント

COVID-19の影響に伴う需要の低迷により、主要製品は総じて販売量が減少したものの、各種産業プラントエンジニアリング事業において、国内グループ企業向け工事の完成工事高が増加したことから、当部門の売上高は前年同期比19億円（2.4%）増加の821億円となりました。経常利益は、主要製品の販売量が減少したこと等から、前年同期比0億円（3.4%）減少の12億円となりました。

主要な品目等の生産実績及び受注状況の当期の推移は、次のとおりであります。

セグメント	品目	単位		第1	第2	第3	第4	累計
		生産量		四半期	四半期	四半期	四半期	
機能材料	銅箔	生産量	千t	5	6	5		17
金属	亜鉛	生産量	千t	43	56	57		157
	鉛	生産量	千t	15	17	18		51
自動車部品	自動車部品	生産金額	億円	126	187	203		517

* 亜鉛：共同製錬については当社シェア分

(2) 財政状態の状況

資産合計は、現金及び預金82億円等の減少があったものの、たな卸資産211億円、有形固定資産178億円、流動資産その他146億円、受取手形及び売掛金105億円等の増加により、前連結会計年度末に比べ586億円増加の5,957億円となりました。

負債合計は、銅鉱山権益譲渡損失引当金204億円、長・短借入金、社債及びコマーシャル・ペーパー残高166億円、支払手形及び買掛金34億円等の増加により、前連結会計年度末に比べ435億円増加の4,073億円となりました。

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益140億円、非支配株主持分22億円、その他有価証券評価差額金16億円等の増加に加え、剰余金の配当39億円等の減少があり、前連結会計年度末に比べ151億円増加の1,883億円となりました。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.9ポイント低下の29.8%となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、日比製煉株式会社及び日比共同製錬株式会社を連結子会社としております。この影響により、前連結会計年度末に比べ、資産合計は322億円（うち、有形固定資産234億円）、負債合計は297億円（うち、長・短借入金205億円）増加しております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、7,500百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当社は、2020年11月9日開催の取締役会において、当社が保有する全てのカセロネス銅鉱山権益について、JX金属株式会社に譲渡することを決議いたしました。詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（四半期連結損益計算書関係）」に記載のとおりであります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	190,000,000
計	190,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2021年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	57,296,616	57,296,616	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	57,296,616	57,296,616		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2020年10月1日～ 2020年12月31日		57,296		42,129		22,557

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 190,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 56,999,300	569,993	
単元未満株式	普通株式 106,716		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	57,296,616		
総株主の議決権		569,993	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権の数10個)含まれております。

【自己株式等】

2020年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
三井金属鉱業株式会社	東京都品川区大崎 一丁目11番1号	190,600		190,600	0.33
計		190,600		190,600	0.33

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,677	24,435
受取手形及び売掛金	4 83,979	4 94,497
商品及び製品	41,081	48,496
仕掛品	29,536	35,220
原材料及び貯蔵品	50,897	58,954
その他	24,897	39,560
貸倒引当金	212	163
流動資産合計	262,856	301,000
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	187,204	200,027
減価償却累計額	125,396	135,397
建物及び構築物(純額)	61,807	64,629
機械装置及び運搬具	388,292	481,555
減価償却累計額	319,226	398,654
機械装置及び運搬具(純額)	69,065	82,901
鉱業用地	367	360
減価償却累計額	257	260
鉱業用地(純額)	110	99
土地	33,877	36,577
建設仮勘定	12,067	11,058
その他	61,308	63,947
減価償却累計額	49,112	52,274
その他(純額)	12,195	11,672
有形固定資産合計	189,124	206,939
無形固定資産	5,762	7,498
投資その他の資産		
投資有価証券	65,980	67,272
長期貸付金	435	428
退職給付に係る資産	3,769	4,120
繰延税金資産	5,174	5,475
その他	4,092	3,130
貸倒引当金	78	83
投資その他の資産合計	79,375	80,344
固定資産合計	274,262	294,782
資産合計	537,119	595,783

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4 41,346	4 44,824
短期借入金	53,187	58,953
コマーシャル・ペーパー	25,000	30,500
1年内償還予定の社債	20,000	10,000
未払法人税等	1,986	1,689
銅鉱山権益譲渡損失引当金		20,490
その他の引当金	6,541	4,797
その他	37,978	41,163
流動負債合計	186,040	212,417
固定負債		
社債	40,000	30,000
長期借入金	94,883	120,287
繰延税金負債	1,260	1,664
その他の引当金	2,240	2,181
退職給付に係る負債	26,776	27,001
資産除去債務	3,727	3,749
その他	8,933	10,093
固定負債合計	177,823	194,979
負債合計	363,863	407,397
純資産の部		
株主資本		
資本金	42,129	42,129
資本剰余金	22,631	22,631
利益剰余金	93,159	103,041
自己株式	623	624
株主資本合計	157,296	167,177
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	659	2,329
繰延ヘッジ損益	174	60
為替換算調整勘定	7,275	8,524
退職給付に係る調整累計額	322	325
その他の包括利益累計額合計	7,436	10,468
非支配株主持分	8,522	10,739
純資産合計	173,255	188,385
負債純資産合計	537,119	595,783

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	355,920	361,849
売上原価	302,631	293,161
売上総利益	53,289	68,687
販売費及び一般管理費	41,073	38,362
営業利益	12,216	30,325
営業外収益		
受取利息	351	231
受取配当金	1,166	2,823
不動産賃貸料	528	381
その他	560	1,077
営業外収益合計	2,606	4,515
営業外費用		
支払利息	1,334	1,274
為替差損	430	1,613
持分法による投資損失	716	2,836
その他	698	1,573
営業外費用合計	3,179	7,297
経常利益	11,643	27,542
特別利益		
固定資産売却益	165	2,030
投資有価証券売却益	23	¹ 13,472
その他	497	520
特別利益合計	686	16,023
特別損失		
固定資産売却損	127	260
固定資産除却損	908	1,123
段階取得に係る差損		1,500
銅鉱山権益譲渡損失引当金繰入額		² 20,490
その他	502	1,457
特別損失合計	1,538	24,831
税金等調整前四半期純利益	10,791	18,733
法人税、住民税及び事業税	3,878	4,098
法人税等調整額	333	147
法人税等合計	4,211	3,951
四半期純利益	6,580	14,782
非支配株主に帰属する四半期純利益	312	708
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,268	14,073

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
四半期純利益	6,580	14,782
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	244	1,617
繰延ヘッジ損益	2,246	81
為替換算調整勘定	994	764
退職給付に係る調整額	12	4
持分法適用会社に対する持分相当額	256	755
その他の包括利益合計	1,251	3,049
四半期包括利益	7,832	17,832
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,612	17,105
非支配株主に係る四半期包括利益	220	727

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、日比製煉株式会社の株式を追加取得したことにより持分比率が増加したため、同社及びその子会社である日比共同製煉株式会社を連結の範囲に含めております。

なお、当該連結の範囲の変更は、当第3四半期連結会計期間の属する連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与える見込みであります。影響の概要は、連結貸借対照表の資産合計及び負債合計の増加、連結損益計算書の売上高等の増加であります。

(持分法範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、ニッポン・カセロネス・リソース株式会社は重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。

また、第1四半期連結会計期間より、持分法適用会社であった日比共同製煉株式会社を連結の範囲に含めたため、持分法適用の範囲から除外しております。

(連結子会社の決算日の変更)

従来、決算日が12月31日である連結子会社については、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引について連結上必要な調整を行っておりましたが、より適切な連結財務諸表の開示を行うため、第1四半期連結会計期間より、三井銅箔(香港)有限公司は、決算日を3月31日に変更し、三井銅箔(蘇州)有限公司、三井金属特种陶瓷(蘇州)有限公司、Compania Minera Santa Luisa S.A.、上海三井鑫云貴稀金属循環利用有限公司、三井金属(上海)企業管理有限公司、三井金属貿易(上海)有限公司は、四半期連結決算日に仮決算を行う方法に変更しております。

この決算期変更に伴い、当第3四半期連結累計期間は2020年1月1日から2020年3月31日までの3か月分の損益について、利益剰余金の減少195百万円として調整し連結しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当社及び国内連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(会計上の見積りを行う上でのCOVID-19の影響)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載したCOVID-19の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 保証債務等

次の関係会社等について、金融機関からの借入等に対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
パンパシフィック・銅業(株)	85,864百万円	パンパシフィック・銅業(株)	51,914百万円
ニッポン・カセロネス・リソーシズ(株)		ニッポン・カセロネス・リソーシズ(株)	32,400
SCM Minera Lumina Copper Chile	21,218	SCM Minera Lumina Copper Chile	17,077
三井住友金属鉱山伸銅(株)	500	三井住友金属鉱山伸銅(株)	350
従業員	289	従業員	261
その他 4社	280	その他 1社	37
計	108,152	計	102,040

2. 債権流動化に伴う偶発債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
買戻義務	427百万円	624百万円

3. 受取手形割引高

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
受取手形割引高	219百万円	72百万円

4. 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
受取手形	百万円	173百万円
支払手形		107

(四半期連結損益計算書関係)

1. 投資有価証券売却益

当社は、2020年2月12日開催の取締役会において、パンパシフィック・銅・カッパー株式会社（以下、P P C）がその事業の一部をP P Cが新設するJ X金属製錬株式会社（以下、J X製錬）に承継させる吸収分割を実施し、P P Cが保有するJ X製錬株式を当社及びJ X金属株式会社（以下、J X）へ現物配当すること、及びJ XとJ X製錬が金銭対価の株式交換を実施することにより、J X製錬をJ Xの100%子会社とすることを決議し、2020年4月1日付で実施しております。その理由については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（企業結合等関係）」に記載のとおりです。

上記の株式交換により、当社の保有するJ X製錬株式はJ Xに移転し、同社より金銭の交付を受けることから、当第3四半期連結累計期間において、投資有価証券売却益13,450百万円を計上しております。

2. 銅鉱山権益譲渡損失引当金繰入額

当社は、2020年11月9日開催の取締役会において、当社が保有する全てのカセロネス銅鉱山権益について、J X金属株式会社（以下、J X）に譲渡することを決議いたしました。

当社は、事業ポートフォリオ最適化の観点から、カセロネス銅鉱山事業の今後の位置づけについて検討してまいりました。その結果、カセロネス銅鉱山事業へ配分している経営資源を当社の他の事業へ投入することが、より企業価値の向上に資するとの結論に達したことから、今回の権益譲渡を実施するものであります。

上記の権益譲渡を実施することから、当第3四半期連結累計期間において、銅鉱山権益譲渡損失引当金繰入額20,490百万円を計上しております。

内容は、次のとおりであります。

1. 投資有価証券売却損益

2020年11月9日開催の取締役会決議に基づき、J XとMFN投資株式会社（以下、MFI）及びニッポン・カセロネス・リソーシズ株式会社（以下、NCR）が、それぞれ金銭対価の株式交換を実施することにより、MFI及びNCRはJ Xの100%子会社となります。

上記の株式交換により、当社の保有するMFI株式及びNCR株式はJ Xに移転し、同社より金銭の交付を受けることから、投資有価証券売却損益を計上する予定であります。

(1) 当社に金銭の交付を行う会社の名称

J X金属株式会社

(2) 株式交換の時期

2021年2月5日

(3) 株式を移転する会社の名称及び事業内容

MFN投資株式会社

事業の内容：カセロネス銅・モリブデン鉱山への融資を目的とした会社への投資

ニッポン・カセロネス・リソーシズ株式会社

事業の内容：カセロネス銅・モリブデン鉱山関連事業

(4) 移転する株式の数、対価、損益及び移転後の持分比率

MFN投資株式会社

ア．移転する株式の数 34株

イ．対価（金銭の交付） 0百万円

ウ．損益 0百万円の利益

エ．移転後の持分比率 - %

ニッポン・カセロネス・リソーシズ株式会社

ア．移転する株式の数 3,220株

イ．対価（金銭の交付） 0百万円

ウ．損益 2,083百万円の損失

エ．移転後の持分比率 - %

2. 貸付債権譲渡損失

2020年11月9日開催の取締役会決議に基づき、カセロネス銅鉱山権益を譲渡するための条件として、同鉱山の運営に要した資金のうち当社が追加で負担すべき金額をNCRに対し貸付け、当該債権をJXに譲渡する必要があることから、当該譲渡に伴う損失を計上する予定であります。

(1) 譲渡する相手会社の名称

JX金属株式会社

(2) 譲渡の時期

2021年2月5日

(3) 譲渡価額及び損益

ア. 譲渡価額 0百万円

イ. 損益 18,406百万円の損失

(注) 当社が追加で貸付を実行する金額約33,500百万円のうち、損失として計上すべき額

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
減価償却費	20,916百万円	24,925百万円
のれんの償却額		105

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	3,997百万円	70円	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	3,997百万円	70円	2020年3月31日	2020年6月29日	利益剰余金

(企業結合等関係)

1. 株式取得による企業結合

当社は、2020年2月12日開催の取締役会において、当社とJX金属株式会社(以下、JX)との共同出資会社であり、当社の持分法適用関連会社であるパンパシフィック・カッパー株式会社(以下、PPC)が、その事業の一部をPPCが新設する日比製煉株式会社(以下、日比製煉)に承継させる吸収分割を実施し、PPCが保有する日比製煉株式を当社及びJXへ現物配当すること、及びJXが保有する日比製煉株式の全てを当社が取得することにより、日比製煉を当社の100%子会社とすることを決議し、2020年4月1日付で実施しております。また、日比製煉は、PPCが保有する日比共同製煉株式会社(以下、日比共同)の株式を承継したことから、当社の持分法適用関連会社である日比共同は、連結子会社となっております。

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及び事業の内容

ア. 日比製煉株式会社

事業の内容: 電気銅等の製錬・精製受委託 他

イ. 日比共同製煉株式会社

事業の内容: 電気銅等の製錬・精製受託 他

企業結合を行った主な理由

当社及びJXは、2000年10月に銅製品の共販会社としてPPCを設立いたしました。その後、2006年4月1日に銅製錬機能の一体運営による競争力強化のため、それぞれの銅製錬機能をPPCに移管する生産統合を行い、PPCにおいて資源開発事業、原料調達から製錬・製品販売までの銅事業一貫運営体制を構築し、これまで運営してまいりました。

生産統合以降、当社は既存の鉛・亜鉛・貴金属製錬ネットワークのシナジー追求、JXは下流事業強化に伴う製錬事業の役割見直しなど、それぞれの事業戦略による収益拡大を模索してまいりました。この度、各々の銅製錬所の特徴・特性を熟知する当社及びJXが、それぞれ自社の事業ポートフォリオの中で独自に製錬所を活用していくことにより、現在の銅製錬機能の競争力をより高められると判断いたしました。

これに伴い、2020年4月1日をもって、PPCが運営する銅製錬機能である日比製煉所及び日比共同玉野製煉所(PPC保有権益分63.51%)と、佐賀製錬所及び日立精銅工場を、それぞれ当社及びJXが製錬子会社として運営することといたしました。

企業結合日

2020年4月1日

企業結合の法的形式

PPCを分割会社とし、日比製煉を承継会社とする吸収分割、PPCによる日比製煉株式の現物配当並びにJXから当社への日比製煉株式の譲渡

取得する議決権比率

ア. 日比製煉株式会社(2020年2月3日設立)

企業結合直前に所有していた議決権比率 32.20%(間接所有)

企業結合日に追加取得した議決権比率 67.80%

取得後の議決権比率 100.00%(直接所有)

イ. 日比共同製煉株式会社

企業結合直前に所有していた議決権比率 20.45%(間接所有)

企業結合日に追加取得した議決権比率 43.06%(間接所有)

取得後の議決権比率 63.51%(間接所有)

取得企業を決定するに至った主な根拠

日比製煉株式会社及び日比共同製煉株式会社に対する当社の議決権比率等を勘案した結果、当社を取得企業といたしました。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2020年4月1日から2020年12月31日まで

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

企業結合直前に所有していた普通株式の企業結合日における時価	1,352百万円
取得の対価 取得に伴い支出する現金	2,800百万円
取得原価	4,152百万円

(4) 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差損	1,500百万円
-----------	----------

(5) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー業務等に対する報酬・手数料等	10百万円
----------------------	-------

(6) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん

703百万円

発生原因

主として日比製煉株式会社の今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力であります。

償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

(7) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	10,114	百万円
固定資産	27,835	
資産合計	37,950	
流動負債	32,578	
負債合計	32,578	

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注2)
	機能 材料	金属	自動車 部品	関連	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	121,665	105,586	70,346	58,946	356,545	625	355,920
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	4,583	18,859		21,283	44,726	44,726	
計	126,249	124,446	70,346	80,230	401,272	45,351	355,920
セグメント利益	10,507	1,554	889	1,287	14,238	2,595	11,643

- (注) 1. 外部顧客への売上高の調整額は、主に在外子会社の売上高の本邦通貨への換算処理における差額(予算作成時において想定した為替相場と期中平均為替相場との差)であります。セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,783百万円、たな卸資産の調整額 584百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び試験研究費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注2)
	機能 材料	金属	自動車 部品	関連	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	132,110	114,125	58,765	60,571	365,572	3,723	361,849
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	7,436	21,779		21,596	50,812	50,812	
計	139,547	135,905	58,765	82,167	416,384	54,535	361,849
セグメント利益	15,351	13,659	1,284	1,244	31,539	3,997	27,542

- (注) 1. 外部顧客への売上高の調整額は、主に在外子会社の売上高の本邦通貨への換算処理における差額(予算作成時において想定した為替相場と期中平均為替相場との差)であります。セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,322百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び試験研究費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、組織変更に伴いセグメント区分の見直しを行っております。従来「機能材料」セグメントに含めていた一部の子会社を「関連」セグメントに、「関連」セグメントに含めていた一部の子会社を「機能材料」セグメントに、それぞれ変更しております。

また、「金属」セグメント内においても、一部事業について区分の変更をしております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「金属」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間より、日比製煉株式会社の株式を追加取得したことにより持分比率が増加したため、同社及びその子会社である日比共同製錬株式会社を連結の範囲に含めております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては598百万円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	109円76銭	246円45銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	6,268	14,073
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	6,268	14,073
普通株式の期中平均株式数(千株)	57,106	57,106

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年2月12日

三井金属鉱業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三 浦 洋 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 細 矢 聡 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 永 峯 輝 一 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三井金属鉱業株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三井金属鉱業株式会社及び連結子会社の2020年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれておりません。